

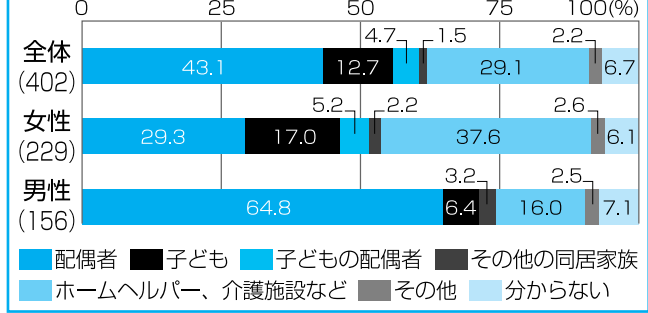
男はあてにされてない？

将来介護してもらいたい人について、男性は配偶者を望む人が多く、約三分の二を占めています。しかし、女性はホームヘルパーや介護施設などでの介護を望む人が約三分の一を占め、配偶者による介護を望む人より多くなっています。

女性に偏る介護の負担

日本人の寿命が延びたことで生じた問題として「高齢者介護」があります。平成十三年実施「国民生活基礎調査」によれば、最も重い要介護者（要介護5の人）を介護している人の約六割が「ほとんど終日介護している」と答えています。また、同じ調査によれば、同居で介護している人の76・4%が女性（配偶者、子、子の配偶者など）です。

誰に介護してもらう？ 市民意識調査（平成15年実施）



介護を必要とする人が介護者を選ぶといったことが女性に介護負担が集中する原因の一つなのかもしれません。その負担の大きさをゆえに夫婦、家族、親族間の不仲の原因にもなります。社会・制度の問題であると同時に家族で共通の問題として認識することが大切でしょう。

教育夢発信

濃南中学校

故郷に学ぶ「中馬の時間」

「中馬の時間」は、総合的な学習の時間の中で、濃南地域の伝統文化を学ぶ時間です。

昔栄えた産業道路であった中馬街道に伝わる「中馬馬子唄」と「打ち囃子」、そして伝統産業である陶器作りを学ぶ「土と炎」の三つのコースに分かれています。

それぞれのコースでは、「中馬馬子唄」は林静夫さんと馬子唄保存会の皆さんに、「打ち囃子」は田中重一さんに、「土と炎」は加藤昌さんに、とても熱心に指導していただいています。



銭（ぜに）太鼓の指導をする林さん

林さんの一言

中馬馬子唄は、故郷の財産であり宝物です。この思いを生徒さんたちにもよく知ってもらい、大切な宝を末永く伝承して行ってほしいと願っています。

田中重一さんには、笛や太鼓の演奏の仕方や、笛の作り方も教えていただいています。



いつも生徒と一緒に演奏される田中さん

加藤昌さんには、土ねりから一夜の窯焼きまで、手取り足取り教えていただいています。



ろくろをまわして作陶指導をする加藤さん

生徒たちが、地域講師の先生や地域の人々とふれあい、生き方を学び、故郷を愛し、心豊かでたくましい人と願う「中馬の時間」です。

